

DREAM TIMES 第〇号です。Thank you very much, Pam!

3年生は環境問題に詳しいゲスト・ティーチャーのパムさんと交流しました。タイのバンコクからボランティアで来校してくれました。世界で起こっている問題やその解決に挑む人々について学習する皆さんと「学び」を共有したいという思いで、日本での授業への参加を快諾してくれました。

すでに帰国されましたが「優しくフレンドリーな生徒たちに出会えて嬉しい」と喜んでいました。3年2組の教室で給食を一緒に食べた際、配膳の手際の良さや牛乳パックなどの分別回収の徹底ぶりに驚いていました。今回の来日でパムさん自身にも新しい発見がたくさんあったようです。授業内容を記事にまとめたのでご覧ください。

If you guess right on a quiz, you win a nice prize.

QUIZ & PRIZE

【今回のクイズ】難易度 ★★★★★ (締切XX/XX)

昔から日本にもいるキャッサバ(タピオカ)の葉が大好きな天の虫って何のことでしょう。

【ヒント】胸に6本、腹に8本、お尻に2本の足がある。

【今回の記念品】

今回はラオスのトゥルー・カラーで購入の「手作りコインケース」です。正解者より抽選で2名にプレゼント♪



★解った人は学年、組、名前と答えを書いて専用ポストへ♪
★紙は何でもOK。備え付け投稿専用紙は使わないで下さい。

パムさんとの授業の感想

- 苦しい状況の中で貧困の打開のためにいろいろな挑戦をしていて素晴らしいと思いました。
- 世界には様々な問題がある。世界のすべての人が助け合って物事を解決しなければと思った。
- 最初はかなり衝撃的でしたが貧困を防ぐためにも昆虫食は素晴らしいものだと思います。
- 印象に残っているのは昆虫食。パウダー状にして昆虫の形をなくするのはすごくいいアイデアだと思う。私もそれなら食べられそうだと思います。栄養もあり環境にも優しいことを知れて良かった。
- 虫は食べたくないと思います。でも形を変えられたらわからないので勇気を出して食べてみます。
- (昆虫食のお菓子を)最初はキモチ悪いと思っていましたが、ちょっと食べてみたくなりました。

★★★ SDGs に関する感想 ★★★

- 世界の問題について改めて考えさせられました。世界も17の取組をしているので、自分も今できることを精いっぱい取り組んで少しでも早く問題がひとつでもなくなるようにしたいです。
- 環境を守ったり、その他にも世界のいろいろな問題を解決するためにSDGsがあることを知りました。僕は興味がわいたので調べてみます。
- 私たちがSDGsを学んだように、他の人にも知ってもらい理解を広げていきたいと思いました。
- 普段の生活の中でもSDGsを意識していきたい。
- 「知る」ということは大切なことだと思います。私ももっとSDGsについて学び意識していきたいです。そして目標達成に向けて世界の人々が協力することが大事だと思うので、まずは自分ができることから始めていきたいです。世界の人々が同じ目標に向けて取り組むことは良いことだと思います。
- スリンで実際にSDGsに関連する様々な取組が行われていることを知ってとても驚きました。こうした小さな積み重ねが大事だと思います。こうした経験を重ね、いつかはアメリカや中国のような大国でもこうした活動が活発に起こり、SDGsが達成されればいいと思いました。
- パムさんとお話できてすごく楽しかったです。私は虫が苦手なので昆虫食の見た目にはビックリしました。でもどんな味がするのか食べてみたいと思いました。自分の知らないことを知れて良かったです。SDGsに興味を持って、自分のできることをしていきたいです。

★★★ 英語で書かれた感想 ★★★

- Surin is a very good city because people there are kind to nature. I think their actions are very good. In particular, eating insects is good.
- I learned a lot of problems in Surin. I've never eaten crickets. I want to eat them someday.
- It was difficult for me to talk with Pam, but I enjoyed talking with her. I learned a lot of problems in the world. I thought that SDGs is important. I want to learn more about SDGs. I hope that people in the world become happy. Thank you for coming to our school!
- I think it's important for us to think about problems around the world. I want to travel other poor countries to see the reality in the future. We knew some new important things today. I'm going to think about them again. I want to share them.

パムさんによる講演「故郷スリンからの物語」の振り返り

1月24日にタイからゲスト・ティーチャーとしてWANNOBON KHUAN-ARCH (Pam)さんを招き「故郷スリンからの物語」と題し講演してもらいました。

まず、前半は「日本の紹介」と「講師への個人的な質問」を織り交ぜた特別版の英語スゴロクでアイスブレイクしました。

どのグループでも臆せず堂々と日本や大分の紹介をしたりパムさんへ質問したりする姿が見られ、事前に取り組んだ「即興的な会話のためのトレーニング」の効果が表れていたと思います。

自己紹介の手法として、シンプルに片方が話して片方が聞くやり方も悪くはありませんが、誰が何を話すかを運に託すゲーム方式もわくわく感が増して面白いものだと感じました。

後半は、いよいよパムさんが自分の故郷であるスリンを題材に、食料問題の背景やその解決策として今実際に取り組まれていることについて説明してくれました。

講演の流れをもう一度振り返ってみましょう。

お話は、生徒の皆さんにもよく知られている日本人医師・中村哲さんの話から始まりました。干ばつによって豊かさを失ったアフガニスタンで水の大切さを訴え治水事業に尽力した中村医師の話は、3年生が2学期に道徳で学習した内容とも重なり話に入りやすかったのではないかと思います。

そしてタイの位置や故郷スリンの状況をアフガニスタンと比較しながら紹介しました。いずれも乾燥地帯で雨が少なく、他のエリアに比べて貧困率の高い地域だということでした。

地理的な要因が気候に影響を与え、干ばつや水不足を引き起こし、これが米の収穫量を減少させて貧困が生じるという1つの流れを示し、彼女の故郷であるスリンで行われている具体的な解決策の例をいくつか紹介してくれました。

シルクの生産、米の一期作、サトウキビやキャッサバなど米に代わる作物の栽培、新しい食料源(藻、トカゲ、カエル、昆虫)などが紹介されました。

昆虫食の話題になると教室に嫌悪のどよめきが起こりました。笑顔で昆虫食のメリットを話すパムさんとは対照的にほとんどの人の顔に嫌悪感が見られました。「オウエ～」という声も聞こえました。



上は、授業後の集合写真。下の写真は、スライドからの引用で昆虫食の商品。食べやすいように昆虫を粉末状にしてスナックやパスタに練りこむなどの工夫がなされている。

パムさんによる昆虫食のメリット

- 高たんぱくでビタミン豊富、栄養価が高い
- 低カロリー
- 環境に優しい
- より小さい土地、より少ないエサや水で育つ
- 温室効果ガスの排出が少ない
- 何ととっても美味しい

パムさんの故郷スリンでも、すでに昆虫の養殖が始まっているそうです。タイや近隣の諸国でも収入源の限られた地方の人々の多くが収入や雇用を生み出す昆虫産業に大きな期待を寄せているということでした。

2050年に世界人口が98億人に達するという試算があります。人口増加による肉や魚の不足が懸念される中、昆虫食は新たな食料源として注目されています。授業で皆さんも見せた「昆虫を食べること」に対するあの抵抗感が何らかの方法で解消されれば、これだけメリットの大きい昆虫食は急速にその人気を拡大するのではないかと思います。

そもそも、すでに多種多様な生き物を食している私たちが昆虫だけに抵抗感を示すのも、おかしい話ではないでしょうか。パムさんから頂いたバンブーフーム(竹虫)のスナックは美味しかったです。

Travel Photo Gallery 旅の写真館 ●織機を操る女性(ビエンチャン)



1998年にラオスの女性を支援する日本のNGOによって設立された。3年間JICAによる援助を受けた。現在は自立してラオス労働福祉省の管轄のもとで運営されている。

ラオスのビエンチャンにあるホワイホン職業訓練センターを訪れた。豊かな緑に囲まれた施設の中には静かな時間が流れていた。そして、時折「ガタンカタン」という織機の音が響く。工場と思われる建屋に入ると数名の女性が織機を使って生地を織っていた。手で微妙に棒を調整しながら器用に作業をしている。伝統的な染織と縫製技術を学んでいるという。併設される「トゥルー・カラー」というショップでは、天然染色のシルク生地やカバンや財布などの小物が売られていた。ラオスの豊かな自然と熟練の技術が生み出す芸術品とも呼べる作品に見とれる。素人目にもその緻密さには圧倒される。40,000キープを支払って、部屋の隅に置かれていたモン族風の民族パターンをあしらった小さなポーチを購入した。